

学校通信

ひがしやま 第39号

発行日 令和7年10月29日(水曜日)

発行者 別府市立東山幼稚園
別府市立東山小学校
別府市立東山中学校
校(園)長 谷川 芳明

○第30回全国棚田サミットに開催について(11/1~2)

・天間、大所、堂面、内成の各棚田とともに、東山の棚田群も紹介されています。棚田保存のために、地元の組織的な活動により、維持管理されているそうです。11月2日(日)に山の口地区で開催されるエクスカージョンでは、短時間ですが、子どもたちの農業体験活動を説明します。棚田サミットに関連して、別府市役所の正面玄関ロビーには、子どもたちが描いた農業関連の絵画58点が展示されています。



●今年、子どもたちが植えた稲は残念ながら、鹿による食害で収穫ができませんでした。伝統的な行事である餅つきは、体験させたいので、農榮会さん、JAべっぷ日出さん、市農林水産課さん、保護者の皆さんのご協力を得て実施したいと思います。

●さて、コメ作りは、田んぼに水をためたり、おとしたり、水の管理がとても大切です。さらに病害虫の駆除、雑草とり、鹿などの動物からも守らなければならない。とても管理に手間暇がかかります。

また現在の異常気象に対応するため、田植えや稲刈りの時期なども毎年同じ時期とは、いきません。

●そここでお店に並んでいるお米の値段についてですが、管理や農機具に係る費用を考えた時、安いと思う？高いと思う？それともいい感じ？

●農業は、日本の基幹産業です。別府市と日出町でお米の生産者は約120名だそうです。人口減少、高齢化に伴い、生産者は減っています。

●一方で、農業に興味関心のある児童生徒もいて、昨年度、招聘した県立久住高原農業高校の佐藤校長は、これからは農業の時代。多様な可能性があると言っていました。8月のオープンスクールには、県内から過去最高の70人を超える生徒と保護者の参加がありました。

●給食で食べているご飯は、棚田サミットでも注目されている別府市内の東山、内成、天間で収穫されたお米です。生産者の皆さんが時間と手間をかけたお米です。給食時間に、時々思い出してほしいですね。